



手ぬぐい百選

手ぬぐいの伝統と
用途を紹介します



手ぬぐい：技法と職人技

注染（ちゅうせん）

注染とは伝統的な型染めの一種で、糊付けし、重ね上げた生地の上から染料を裏と表の両側から注ぎ込んで染め上げます。裏表が無く染め上がるのが特徴で、他の染色方法では味わう事のできない独特の風合い、絶妙なタッチや立体感を醸し出します。注染では染める際に色ごとの土手を作り、色を染め分けます。型は1版でも複数の色彩で表現することができます。

- **ボカシ**

注いだ染料が生地に浸透していく際に、混ざり合う事で、ボカシの表現をすることができます。絵の具を混ぜたような絶妙なにじみ合いが特徴です。重ねた生地への浸透率の違いや、染料のかける量によって一枚ずつ風合いが異なります。

- **細川**

細川（ほそかわ）とは染め工程を二度に分けて行う「二度染め」の事です。難易度が高く、色の重なりが独特の味わいと奥深さを醸し出します。一枚ずつ異なるズレも、職人による手作業ならではの味となります。

細川の技法を使用した[手ぬぐい「カルタ」\(赤\)](#)を[購入](#)する。



ぼかしの技法



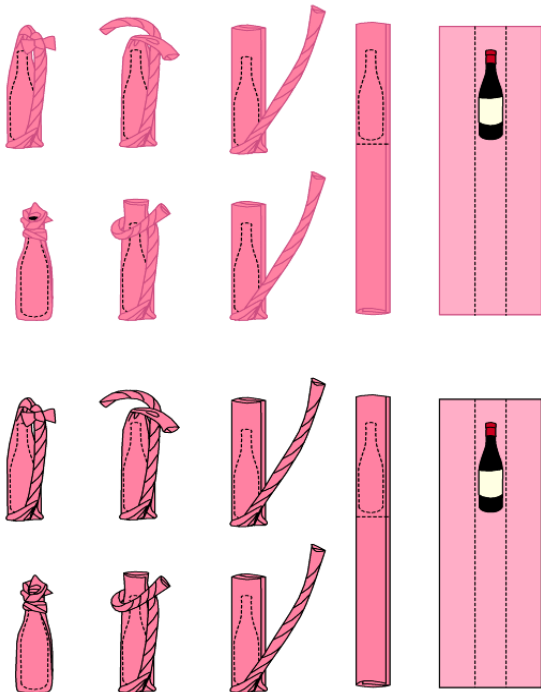
細川の技法



手ぬぐい おもてなしの心：包み方

手拭いでボトルを包む

1. 手拭いを裏返して広げ、真ん中にボトルを置きます。
2. ボトルを包んで立たせます（オプションで手先をねじります）
3. (1) 手先をねじってボトルの口に巻き口の部分で結びます。
(2) ボトル上部の手先とねじった手先を結びます。



お弁当包みとMy箸セット

1. 手ぬぐいの裏が見えるように横長に広げ、中央にお弁当箱を置きます。
2. お弁当に添わせるように、しっかりと上下から包みます。
3. 両脇をきれいに折りたたみ中央で合わせ長さを均等にします。
4. しっかりとひと結びにします。結び目がゆるまないように注意して、さらにひと結びします。
5. ランチタイムには、ランチョンマットとして使用します。
6. お揃いのMy箸セットでエコでお洒落なお弁当ランチタイムを演出します。

[お弁当包みの手拭いを購入する](#)
[My箸セットを購入する](#)





手ぬぐいのお手入れ

■ 手ぬぐいのお手入れ

- 最初の数回は単独で素洗いをしてください。手ぬぐいは染めものなので、最初の数回は洗濯すると色落ちします。最初の2-3回は、洗剤を使わずに単独で洗い、陰干しをしましょう。乾燥機は厳禁です。色落ちがなくなるまでは他のものとは別に洗濯しましょう。

■ ほつれは自然におさまります

- 手ぬぐいは切りっぱなしなので、最初のうちはどうしてもほつれます。糸がほつれてきたら切りそろえると良いでしょう。何度か洗濯をすると自然に落ち着きます。